

令和 7 年度 県立総和工業高等学校自己評価表

目指す学校像	1 校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で、豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する学校。 2 圏央道沿線の工業団地の発展に貢献できる人材を育成する、地域に根差した工業高校。 3 全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒、保護者及び地域社会から確かな信頼を寄せられる学校。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する。 ・地域に根差した工業高校を目指し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・多様な学習ニーズに応じた教育課程の実施により、就職から大学進学までの進路希望の実現。 ・系統的・組織的なキャリア教育を推進し、企業及び大学との連携を図り、望ましい勤労観や職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し社会の変化に対応できる力をもつ生徒の育成。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・基礎基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に習得し、「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につける努力をする生徒。 ・工業の基礎的・実践的技術を習得し、各種資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒。 ・自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
1 1、2 学年の各学科実習及び 3 学年の課題研究など、工業の専門教育を中心とした教育活動を展開している。 出前授業、地域イベントへの参加など、生徒の発表の機会も設けている。機会をとらえて、地域社会と連携し、生徒が活躍し、自己有用感を感じる機会を増加させることが課題である。 2 教科毎の継続的な学習支援により、学習意欲の維持に努めている。生徒による授業評価は職員の平均で 3.4 であり、昨年度より 0.2 ポイント上昇した。生徒の興味関心を高めるために、ICT 等の利活用の促進により、授業改善につなげ、生徒の学習意欲の向上を図ることが課題である。 3 問題行動や交通事故の未然防止や早期発見に努め、生徒への継続的な働きかけにより交通安全と規範意識を向上させることが課題で		学習意欲を高める授業・実習の指導改善	①基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を生かして、授業改善を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ③ものづくり教育を推進し、専門的な知識や技術の習得により、資格取得につなげる。 ④ICT の利活用の促進により、「協同的な学び」を推進する。 ⑤生徒による授業評価において、授業満足度の平均点を 3.2 以上とする。	
		道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	⑥規範意識の涵養を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑦道徳教育やいじめ防止対策を推進し、問題行動等の未然防止を図る。 ⑧交通安全ルールやマナーの徹底を図り、交通事故防止に努める。	
		健康や体力を育み学校全体の活性化	⑨特別活動や部活動等において生徒の自主的活動を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑩学校行事における体験的活動等を通して生徒の協調性、協働性を育成し、学校全体の活性化を図る。	
		社会の変化に対応した生きる力の育成	⑪キャリア教育を推進して勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。 ⑫企業見学会、インターンシップ及びガイダンスを充実させ、生徒の主体的な進路選択を支援する。	

別紙様式 2 (高)

ある。 4 令和6年度卒業生の進路状況は就職者の割合が約 77%で、大学進学者は4名であった。地域の商工会や小学校と連携し、各種ものづくり体験教室等を実施した。今後も地域連携を強化し継続できるかが課題。 5 資格指導について、講習会等の充実を図り、国家資格・国家検定をはじめ生徒の資格取得に努めた。 6 部活動加入率は減少傾向にあり、職員の勤務形態、働き方改革をふまえ、部活動の精選も視野にあり方について検討することが課題である。		P T A活動の活性化と地域社会との連携	⑬ P T A活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑭ 地域イベントへの出展や出前授業などを積極的に展開し、本校の特色を生かした、地域社会との連携を推進する。	
		働き方改革の推進	⑮ 業務の精選及び効率化を推進し、教育活動の充実を図る。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務部	基礎学力の定着を図る。	自ら考え表現できる授業を展開し、能力の向上を図る。 ①②⑤		
		基礎知識を定着させるため、ICTを活用した反復学習活動を行う。 ①④		
	生徒の就学を支援する。	奨学金に関する情報を随時提供し、生徒の就学を支援する。 ⑫		
		授業改善を進めるため、基礎学力診断テストを活用する。 ①		
	授業時間の確保に努める。	学校行事等において、各科目の授業時数を確保できる編成に努める。 ①		
	ネットワークを整備し、ICTを活用できる環境を整備する。	無線アクセスポイントの接続範囲を広げる。 ④⑮		
		オンライン会議等に対応できる教室を整備する。 ④		
		ICTを活用した情報共有を推進する。 ⑮		
生徒指導部	規範意識、基本的生活習慣や社会のルールを遵守できる生徒を育成する。	道徳教育やいじめ防止対策を推進し、問題行動等の未然防止と早期発見に努める。 ⑦		
		身だしなみの徹底を図るとともに、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑥		
		スマートフォンや SNS の安全利用について、生徒、保護者の意識を高めるための講演会や日頃から他人が嫌がるような使い方をしない等、犯罪に巻き込まれないための指導を推進する。 ⑥⑦		
	交通安全教育の充実をとおして交通マナーの向上と交通事故の未然防止を図る。	交通安全教室を学年毎に実施するとともに、継続的な指導をとおして危険察知力を養い、交通ルールの知識を理解させ、交通事故の減少に努める。 ⑧		
進路指導部	進路意識の向上を図る。	各学年と連携して進路ガイダンスを実施し、生徒の希望進路実現に役立てる。 ⑪		
		進路実績等を公開して 保護者や生徒とデータを共有し、進路意識の向上に役立てる。 ⑪		

別紙様式 2 (高)

	進路選択を確かなものにする。	意識調査・適性検査を実施し、客観的な自己評価をととして進路選択に役立てる。 ⑪			
		オープンキャンパス等への積極的な参加により、各自に合った進学を実現させる。 ⑪			
	職業観・勤労観を育成する。	生徒による希望進学先・希望就職先についての事前研究を徹底させる。 ⑪			
		工場見学及びインターンシップを通してより確かな職業観・勤労観を育成する。 ⑪⑫			
	希望進路 実現のためのサポート体制を整える。	生徒への面接指導の充実に向けて、業者等を利用して職員の研修を計画する。 ⑪⑫			
		提出書類作成における留意点の周知徹底及び ICT 利用による利便性の向上に努める。 ⑪⑫			
特別活動部	生徒会活動、学校行事などの充実を図る。	生徒会役員が中心となり、各 HR の委員長、副委員長、各委員会の代表と連携をとりながら学校生活の中で学校行事をよりよいものにする。 ⑨⑩			
	球技会の内容、種目、企画を検討し充実を図る。	生徒会、体育委員を中心として、各クラスと連携をとりながら内容と企画を検討することにより充実した球技会を実施する。 ⑨⑩			
	ボランティア活動の推進を図る。	学校全体の取り組みとしてボランティア活動ができるように各 HR の代表と生徒会役員話し合いを重ねて検討する。 ⑨⑩			
	文化祭の企画、内容の検討の充実を図る。	生徒一人一人が文化祭にきちんとした形で参加できるように早くから文化祭実行委員と、生徒会役員が話し合いを進め文化祭が成功できるよう努める。 ⑨⑩			
図書視聴覚部	図書館の利用促進と活性化、環境を図る。	個人のタブレット等を活用し、蔵書検索ができるようにし、図書館利用の活性化を図る。 ③④⑥			
		「図書館だより」を刊行して、生徒の読書意欲を向上させ、読書習慣の定着と生徒が図書館へ足を運ぶようにする。 ⑥⑨⑩			
	視聴覚室の環境の改善を図る。	視聴覚室利用の円滑化を図る。 ①⑥			
保健厚生部	心身の健康指導に努め、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	健康診断をととし、生徒の健康管理に努め、基本的な生活習慣を確立させる。 ⑥			
		手洗い・換気を励行し感染症の予防に努める。 ⑩			
	学習環境の整備を図る。	敷地内の施設の整備と美化を推進し、安全・安心な生活環境を確保する。 ⑩			
		生徒がエアコン・扇風機・ストーブなどを適切に使用できるよう管理する。 ⑩			
	防災教育の充実を図る。	防災避難訓練をととし、生徒の防災意識を育む安全教育を推進する。 ⑦			
	教育相談体制を確立する。	年 29 回のカウンセラーを有効に活用し、生徒の精神的ケアを行う。 ⑦			
渉外部	心身の健康指導に努め、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	健康診断をととし、生徒の健康管理に努め、基本的な生活習慣を確立させる。 ⑥			
		手洗い・換気を励行し感染症の予防に努める。 ⑩			
渉外部	PTA 行事の参加率向上を図る。	PTA 総会、支部別 PTA の内容検討。参加教員の意識向上を図る。 ⑬			
	PTA 研修会の充実を図る。	各支部の支部長と連絡を密に、具体的な実施内容を決定する。 ⑬			
	学校 Web ページの活用を図る。	保護者への連絡を徹底するための ICT による情報伝達を図る。 ⑬			
第 1 学年	挨拶、身だしなみ(頭髪、服装)、時間厳守などの基本的な生活習慣を身につけさせる。	学校生活の中でルールや基本的な生活習慣の大切さを学ばせる。 ⑥⑦			
		積極的に資格取得へ取り組む姿勢を促す。 ③④			
		生徒一人一人に学校生活における目標を持たせる指導を推進する。 ⑨			
	基礎学力の向上を目標とし	進路指導を充実させ、就職、進学に対する意識づけをする。 ⑨⑪①			
	個々の生徒達の学力、やる気を	毎日の学校での授業に対する復習することの大切さを教える。 ①			

別紙様式 2 (高)

	引き出して生徒の学力底上げを充実させる。	専門教科に関する基礎学力の底上げを図る。①③④			
第 2 学年	挨拶、身だしなみ（頭髪、服装）、時間厳守などの基本的 生活習慣を身につけさせる。	学校生活の中でルールや基本的生活習慣の大切さを学ばせる。⑥⑦			
		積極的に資格取得へ取り組む姿勢を促す。③④			
		個々に学校生活する中で目標を持たせる。⑨			
	底上げを充実させる。基礎学力の向上を目標とし 個々の生徒達の学力、やる気 を引き出して生徒の学力向上を目指す。	進路指導を充実させ、就職、進学に対する意識づけをする。⑨⑪			
		今日の学校での授業に対する復習することの大切さを教える。①			
		専門教科に関する基礎学力の底上げを図る。①③④			
第 3 学年	進路指導の充実を図る。	個別面談を複数回実施し、個々の進路の実現を図る。①⑨			
		進路試験の対策補習と面接練習を計画的に実施する。⑩⑫			
	基礎学力の向上を図る。	自身の進路に照らして学習に専念する姿勢を育てる。①③			
		基礎的内容の反復を行い基礎学力の定着を図る。②④⑩			
機械科	基本的生活習慣の定着を図る	ルールの大切さを理解させ、社会人として求められる生活習慣の徹底を図る。⑥⑦⑧			
	基礎・基本の指導の徹底を行い特に技術力の向上を目指す。	実習や授業を通して、基礎的・基本的な知識・技術の定着を図る。また、ものづくりの面白さを体験させるとともに、企業が求める工業についての確かな技術を有する人材を育成する。①②③			
		勤労観・職業観の育成を図る。			
	資格取得指導の充実を図る。	インターンシップへの参加を促し、確かな職業観・勤労観を育成する。⑪⑫			
		課題研究を通して、課題解決能力や学習への成就感・達成感を体得させる。また、発表会を行いプレゼンテーション能力の向上を図る。②③④⑭			
	地域との連携を強化する。	個に応じた指導を行い、合格率向上を図る。①②③			
		資格取得を継続的にを行い、生徒の進路実現に向けた支援を行う。③⑪			
		地域イベントに積極的に参加し、本校を P R するとともに参加生徒の積極性や社会性の向上を図る。⑩⑭			
	電子機械科	出前授業を通して、地域との連携を図る。⑪⑫⑭			
		専門科目における、基礎的な知識及び技術の定着を図る。			
電子機械科	高度な技術を習得するために、資格取得指導の充実を図る。	きめ細やかな指導を行い、基礎的基本的な理論の定着を図る。			
		知識の理解度や計算能力の習熟度を把握し、個に応じた授業展開に努め、基礎力の向上を図る。①②			
	安全に作業するために必要な、危険予知能力の向上を図る。	ものづくりを通して、理論と実際の事象の関連をわかりやすく説明し、理解を深める。③			
		学科に関係する資格の情報を提供し、職業観を持たせ、適性に応じた資格取得の高揚を図る。③⑪			
		資格取得に向けて個に応じた指導を行い、充実を図る。③			
電気科	基礎・基本の徹底した指導	事故を未然に防ぐための安全教育を実施し、安全管理の徹底に努める。⑥			
		基礎学力の定着を図るよう、繰り返し学習に力を入れる。①			
	生徒の希望進路の達成	「ものづくり」の基本を学び、適切な教材の作成に努める。③			
		実習や授業を通して、個人の目的意識や適性を考え、目標を達成するよう支援する。①②⑪			

別紙様式 2 (高)

	資格取得指導の充実を図る	生徒一人一人の進路希望、適性に応じた資格を取得出来るよう支援する ③			
		指導方法や教材の見直しを図り、効率の良い資格取得のあり方を検討する ①③			
	基本的生活習慣の確立を図る	実習などの少人数授業を活用し、生徒との関わりを通して、基本的生活習慣について指導の充実を図る ⑥⑦			
国語科	基礎学力の向上及び言語能力を育成する。	音読をとおして、様々な文章に接する中で、より正確な読みができるようにする。 ①②			
		語彙力を高め、思考力・判断力・表現力を培う。 ①②			
	伝え合う力を育成する。	場を意識した話し方を身に付けさせ、適切なコミュニケーションを図るための話す力・聞く力を鍛える。 ①②			
		ICT を活用して教材や情報を共有し、様々な表現方法を身に付けさせる。 ②④			
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	生徒の興味関心を引く教材を選定し、学習の目標を明確にする。 ②⑤			
		個々の到達度を把握し、内容や方法を検討して学習意欲を喚起させるように努める。 ②⑤			
		実社会で生きてはたらく力を身に付けさせるための授業改善を図る。 ②⑤			
地歴・公民科	社会的事象に関する興味・関心を高める	身近な社会的事象を積極的に取り上げ、興味・関心を高める。 ①②④			
		生徒の主体的な学びを支える魅力的な教材を開発し、わかりやすい授業を展開する。①②④			
	基礎学力の向上と思考力の育成	生徒が知識の定着を実感できるように定期考査後や毎授業で積極的に振り返り活動を行う。 ①②⑤			
		ICT 機器を活用し、情報を取捨選択したり生徒自ら思考したりできる場面を設定する。			
数学科	基礎的な計算力の育成・定着を図る	基礎的な計算の演習をする時間を確保する。 ①			
		課外や補習を活用した指導の充実を図る。特に、考査ごとに補習を実施し、生徒が納得できる指導を通して、欠点保持者を出さないようにする。 ①②			
	数学的思考力の向上を図る	ICT 機器を利用し、生徒自らが主体的に思考できる環境を充実させる。 ②④⑤			
		可能な分野においては、学習内容を工業に関連づけ、数学を実践的に利用する思考力を育む。 ③			
理科	理科室の興味関心を高める。	身近な話題や工業科目、資格との関連を意識した授業づくりで、興味・関心を高める。①③			
		実験・観察の時間を多く取り、実感をもって理科の事象に触れられるようにする。 ①②			
	学習に向かう姿勢を育成する。	「科学と人間生活」においては、科学的な一般常識の習得に重きをおいた展開をする。 ①			
		工業科や数学科と連携し、資格取得者数増加や基礎的な計算力の定着を目指す。 ①			
	基本的な知識の確実な定着を図る。	基本的な現象や法則、公式の確実な習得に重きをおいた授業を展開する。 ①			
		Google フォームやクイズを活用し、生徒の理解度を確認しながら授業を進める。 ②④			
	科学的思考力を養成する。	実験・観察や問題演習をとおして、科学的に考える力や知識を活用する力を涵養する。①② 成績不振や学習意欲が高い生徒には補習を定期的に行い、学習力の定着と向上を図る。①⑤			
保健体育科	規律指導の徹底を図る。	安全に授業を実施するためにも、規範意識の高揚を図る。特に、授業開始時刻を守ること、指定の体操着、シューズを正しく着用すること、施設や備品の使用ルールを守ることについては、毅然とした態度で接し規律の徹底を図る。 ①⑥			
	運動技能と体力の向上を図る。	自己の能力に応じた運動の課題に対し、適切な指導・アドバイスを行う。 ①②			
		各種競技に関連する運動を積極的に授業に取り入れ、生徒の体力レベルを昨年度以上にす			

別紙様式 2 (高)

		る。体力テストの結果を指標にし、ABC の合計の割合が 50%を超えるようにする。 ①			
	自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育む。	的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い行動選択ができるよう、保健の授業を通じてさまざまな知識や情報を伝達し、理解を深めさせる。タブレット端末を用いた授業を展開する。 ①②④			
芸術科 (書道)	書写能力の向上を図り、基礎的な技術を身に付ける。	添削指導等の個々に応じた指導を積極的に行い、意欲的に取り組む姿勢を培うとともに、範書により基礎技術の習得に努める。 ①⑤			
		書の伝統と文化についての理解を深め、「心に響くことば」を題材に、身に付けた技術を自身の表現の構想と工夫に生かす。 ①④			
英語科	基礎学力の向上を図る。	授業への取り組みに対して意識を高め、基礎・基本を重視した指導に努める。 ①②			
		基礎的な事項を丁寧に説明し、確かな学力を身に付けさせる。 ①			
	授業内容の定着を図る。	定期的に問題演習を行い、学習達成状況や取り組みを確認する。 ①			
		ALT や ICT の活用を通して、興味・関心を高め、効果的に知識の定着を図る。 ①④			
	英語活用能力を養う。	生徒が四技能を活用する場面を設定し、総合的な英語運用能力を養う。 ①②			
		授業の中で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。 ①②			
家庭科	持続可能な社会をつくる暮らしの担い手を育てる。	衣生活に必要な知識を物資のサイクルを考えさせる。 ②④			
		SDGs の観点から生活について考えさせる。 ②⑥			
	生涯を見通して、主体的に生きる力を育てる。	生活に必要な知識について、ワークシートを利用したブレインストーミングを行い、考える機会を作る。 ⑪			
		食生活の基礎について実習をとおして学ぶ。 ①②			
	ICT の活用を促進する。	デジタル教材を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ①④⑮			
		ミライタッチやクラスルームを活用する。 ①④⑮			

※ 評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない